

# 洪水

環 眞 沙 緒 子

濁水は渦を巻きすさまじい勢いで流れる

河岸の家は皆押流されてしまったのに

子守唄が何處からか聞えてくる

母の子守唄でもない……………

父の子守唄でもない……………

旅で見た町々のやうに判然と記憶には

無いが何處からか聞えてくる子守唄……………

ああ父よ、母よー

たつた一人残された女はその力の無い

腕に一本の棒杭をしつかと抱き乍ら

もはや救ひを呼ぶだけの元氣もない

髪の毛は海草のやうに河中に浮び

刻々増る水嵩に女は眼を閉じた

だが……………その耳になほ子守唄が細々と

聞えてくる。

掲載誌：「山桜」昭和九年六月号

（ 詩 ）